

東京都病院協会 会報

東京都病院協会
医療共済制度 引受保険会社



MetLife
メットライフ生命

2020年(令和2年)9月28日

第281号

毎月1回 定価200円(会員購読料は会費含む)

発行所：一般社団法人東京都病院協会／発行人：猪口正孝 〒101-0062 千代田区神田駿河台2-5 東京都医師会館404号室
TEL:03-5217-0896 / FAX:03-5217-0898 / URL : https://tmha.net / E-mail : info@tmha.net tmha@mri.biglobe.ne.jp

新任のご挨拶

福祉保健局長就任にあたって

東京都福祉保健局長 吉村 憲彦氏

東京都病院協会の皆様におかれましては、日頃から都の福祉保健医療行政に多大なご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。また、貴会が都内病院における医療の質の向上に向け、さまざまな活動を展開されておりますことに、心よりの敬意を表するものでございます。

私は、去る7月13日付けで福祉保健局長を拝命いたしました。どうぞよろしくお願いたします。

皆様もご承知のとおり、今後、都の高齢者人口は更に増加する一方、年少人口は減少に転じることが見込まれており、2040年には、都民のおよそ3人に1人が65歳以上の高齢者になると予測されております。特に、後期高齢者の増加が著しく、医療・介護サービスの需要も増大することが見込まれておりますが、このような中でありましても、都民に対して質の高いサービスを安定的に供給していく必要があります。

また、年明けからこれまで、新型コロナウイルス感染症対策に局を挙げて



吉村 憲彦氏

取り組んできておりますが、都内病院を束ねる貴会の協力によりまして、入院病床の円滑な確保や、重症及び中等症の患者さまの迅速な入院調整を行うことができております。引き続き、都民の生命を守るため、貴会と一層の連携を図り、取り組んでまいりたいと考えております。

さて、都は2016年7月に「東京都地域医療構想」を策定し、「東京の2025年の医療」をテーマとして、「誰もが質の高い医療を受けられ、安心して暮らせる『東京』を描き、その実現に向けて、「高度医療・先進的な医療提供体制の将来にわたる進展」をはじめとする「4つの基本目標」を掲げたところでございます。

また、17年度に改定を行いました都の保健医療計画におきましては、いわゆる「団塊の世代」が全て75歳以上となります2025年の東京のあるべき姿を掲げた「東京都地域医療構想」の実現に向けまして、取り組みの方向性を盛り込んでございます。今後とも、この保健医療計画に基づきまして、引き続き、高度急性期から慢性期までの医療機能の分化・連携や、予防から治療、在宅療養に至るまでの各段階の取り組みを推進するとともに、小児や働く世代、高齢者などのライフステージに応じた支援の充実を図ることで、誰もが質の高い医療を受けられ、安心して暮らせる「東京」の実現を目指して

まいります。

さらには、昨年度、国が全国ベースで統一・客観的に比較・評価した「医師偏在指標」および「外来医師偏在指標」を用いて、地域における医師確保や、外来医療に係る医療提供体制を確保するための方策を定めた「医師確保計画」および「外来医療計画」を策定しました。

いずれの計画も東京都地域医療構想におけるグランドデザインの実現に向けた4つの基本目標ごとに課題を掲げ、都民の皆様、行政、医療機関、教育機関、関係団体等が今後取り組むべき方向性を示しました。

こうした中で、病床の機能分化と連携につきましても、地域の実情を踏まえて皆様でお考えいただき、取り組みを進めていただく時代かと考えてございます。昨年度の東京都病院学会のテーマは、「私たちはどう生きるか」一貫した、私たちがどう生きるか一貫した、持続可能な病院経営を考える」と、まさにタイムリーなものと考えられましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の収束の目途が立たないことを踏まえ、開催中止の判断をなされた。開催されていけば、活発で有意義な意見交換による大きな成果が期待されていた中、開催中止は大変残念に思っております。

東京都における保健医療をめぐる課題といたしましては、高齢化社会への対応のみならず、安心して子供を産み育てられる周産期・小児医療体制の確保や、近年、多発し、多様化・大規模化する自然災害等に対応した災害医療体制の充実、医師や看護師をはじめとする医療従事者確保対策の推進など、力を注ぐべき課題が多いと認識してござ

います。また、開催を目前に控え、ますます東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会におきます医療体制の確保や、災害級とも言われます近年の暑さ対策等に関しまして、福祉保健局として、しっかりと役割を果たしていく必要があると考えております。

今後とも都の福祉保健医療行政に対するご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。心からお礼申し上げますとともに、東京都病院協会の益々のご活躍とご発展を祈念いたしまして、私のご挨拶とさせていただきます。

本会へ支援物資を寄贈いただきました企業・団体様をご紹介します。

【寄贈企業・団体様】

企業・団体名	寄贈品
公益財団法人 東京都歴史文化財団様	都立文化施設「ご招待カード」

ご厚意を賜りましたことをご報告するとともに心より御礼申し上げます。今後も引き続き、各企業・団体からのご支援を東京都病院協会が会員病院の皆様に繋いでいきます。なお、寄贈については、随時、東京都病院協会 Twitter でも報告させていただきます。

東京都病院協会

新任のご挨拶

新型コロナウイルス感染症への
取り組み

東京都福祉保健局健康危機管理担当局長 初宿 和夫氏



初宿 和夫氏

東京都病院協会の皆様におかれましては、新型コロナウイルス感染症対策に多大な御尽力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

私は、東京都福祉保健局健康危機管理担当局長を去る8月28日に拝命しました初宿和夫でございます。この職は、東京都が新型コロナウイルス感染症を始めとした健康危機に対する備えを一段と固めるために設置しました。課から部へと格上げされた感染症対策部の職員とともに、全力で職務に取り組んでいく所存です。よろしくお願い申し上げます。

東京都病院協会をはじめ、医療従事者の皆様は、新型コロナウイルス感染症の国内での発生の初期から、通常の医療との両立を図りながら、陽性者や疑い患者を懸命に受け入れていただきました。感染リスクにさらされながらの運営は、多大な緊張感と疲弊感を伴うものであったかと存じます。心より尊敬と感謝を申し上げます。東京都も全庁一丸で市民の皆様に向けた相談体制や医療提供体制を整えてまいりまし

た。国による緊急事態宣言期には、外出自粛の徹底、施設の使用停止を要請することになり、学校も大切な時期に臨時休業となりました。医療の逼迫に對して、東京都病院協会の皆様とも連携しながら、ホテルを活用した宿泊療養施設も始めました。その後、緊急事態宣言が解除に至ったのは、医療の最前線に立つ皆様のご尽力と市民のご協力によるものと考えております。6月には「第2波」への備えとして、猪口正孝会長にご協力をいただき、専門家と関係行政機関による「第2波対策検討ワーキング」を立ち上げ、第1波に生じた課題や検査・医療体制について具体的な検討を行って参りました。現在の東京都の新型コロナウイルス感染症対策でございますが、毎週実施しております専門家のモニタリング分析に基づき、検査・医療体制の強化を始めとした多面的な対策を講じております。

て、医療現場における専用の病床を確保する支援などにつきましても、引き続き、しっかりと取り組んでまいります。次の秋冬を見据えた対応でございますが、大きな課題は、季節性インフルエンザとの同時流行です。医療機関に負担が集中することを避けるため、重症化のリスクが高い高齢者のインフルエンザワクチン接種率向上に努めます。また、新たに、高齢者施設や障害者支援施設などにおいて、入所者や職員に

対するスクリーニング目的のPCR検査等の実施に向け、取り組みを進めております。 これまでも、東京都病院協会の皆様のご努力により、多くの市民の命が救われ、日々の生活が支えられてまいりました。東京都も、これまで以上に皆様への声を対策に活かしてまいります。引き続きのご協力を頂きますようお願い申し上げます。

新型コロナウイルス感染症対策

会長談話

インフルエンザとの同時流行で一層高まる病院への期待

一般社団法人東京都病院協会会長 猪口 正孝



猪口正孝

す。2病院の皆様には本当に敬意を表し、感謝申し上げます。 専門病院には主に3つの効果が期待されます。 1つは入院機能のバッファ効果です。たとえば1日500人の新規陽性患者が出た場合、そのうち200人は入院措置が必要になると想定できます。専門病院はそうした新規患者の入院の受け皿になり、個々の患者の状態に応じて受入機関へ振り分ける役割を果たしていただくことになるでしょう。いったん専門病院で診て、重症・中等症患者は感染症指定病院や大学病院、中等症・軽症患者は重点医療機関、軽症・無症状者は宿泊施設へ送るという流れの起点になるイメージです。さ

まざまな患者が感染症指定病院に殺到することを避けるためにも必要な機能です。 2つめは専門病院として新型コロナウイルスの治療に特化することで、従事する医療者のスキルは確実にレベルアップするでしょうし、より質の高い医療が実現できると思います。 3つめは、過度な受診抑制に歯止めをかけることです。4、6月は特に受診を控える傾向が見られましたが、その一因として「病院に行ったら新型コロナウイルスの患者がいて、うつされてしまうかもしれない」という心配を感じたことが挙げられると思います。これでは疾患の早期発見・早期治療を妨げかねません。新型コロナウイルスの患者は専門病院にまず入院し、後は特定の受入医療機関や宿泊施設にいるのだと認識できれば、安心感も増すでしょう。 同時流行の際には 病院の頑張りが必要 また現在、今冬の新型コロナウイルスと季節性インフルエンザの同時流行への対応が国の議論でも話題になっていますが、そこで問題になるのが発熱患者への対応です。発熱患者は保健所ではなくかかりつけ医をまず受診すると考えられますが、大半の診療所はインフルエンザ判定のための抗原検査は可能でも、新型コロナウイルス判定のためのPCR検査は難しいでしょう。それでも現在1400ほどの診療所に両方の検査を実施すると手あげしていただいているのですが、過度な負担を強いるべきではありません。 ここはやはり、マンパワーの点からも、病院の出番です。インフルエンザ

新型コロナウイルス専門病院に3つの効果を期待

渋谷区にある東海大学医学部付属病院が9月中、府中市にある旧都立府中療育センターが10月中に新型コロナウイルス感染症対応の専門病院として運営されることになりました。いずれも約100床での稼働が予定されていま

か新型コロナウイルスか判別のつかない患者が通常より多く来院する可能性が高くなりますが、ぜひ地域の医療需要に応えるという点からも頑張っていたいただきたいです。各種補助金も活用しながら、PCR検査機能の充実など、体制を整備していただきたいと思えます。付け加えると、オーストラリアでは7〜8月に同時流行があったようですが、発熱患者の多くはインフルエンザではなく新型コロナウイルスにかかっていたようです。繰り返しますが、病院に期待される役割は大きいと言えます。

「オール東京」念頭の政策執行を期待する

国の令和2年度第二次補正予算で組まれた「新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金(医療分)」の執行が始まっています。東京都は「重点医療機関体制整備事業」「感染症対策事業のうち病床確保事業」「救急・周産期・小児医療体制確保事業のうち支援金事業」が9月29日、「医療機関・薬局等における感染拡大防止等支援事業」「従事者慰労金交付事業」が8月31日となっています。

補助金振り込みのタイミングそのものは他の道府県と比べても早いほうだと考えていますが、問題もあります。通常、東京都が補助金を制度設計する際は、東京都医師会や東京都病院協会とコミュニケーションを密にとり、現場の実態に沿う形での運営にご尽力いただいているのですが、今回はそうした話し合いの機会がまったくないままに決まってしまうようです。これは正直に言って遺憾です。新型コロナウイルスの拡大から半年以上が経

過していますが、まだまだ都内の医療提供体制は万全とは言えません。これから院内体制を整えて新型コロナウイルス対応に貢献しようと考えている病院もありますし、そうした方々も貴重な仲間です。そうした病院にも使い勝手の良い仕組みにしていきたい。

東京都病院協会活動報告

#医療現場を応援

1 「キッチンカー for ホスピタルズプロジェクト」

クラウドファンディング・キッチンカープロジェクトの終了報告

東京都病院協会では、新型コロナウイルスと最前線で向き合うという大きな重圧の中、高い使命感を持って従事する医療関係者を応援したいという想いから「#医療現場を応援」プロジェクトを4月末より立上げ、現在までに2つのプロジェクトを実施しました。1つが「ラジオプロジェクト」医療の現状をラジオと考える、もう1つが「キッチンカー for ホスピタルズプロジェクト」です。

このうち、「キッチンカー for ホスピタルズプロジェクト」では、医療関係者の皆様にできたての温かくておいしい食事を出張手数料無し・食料代のみ(80食)で提供することから始めました。

この取り組みは感染防止のため、外出自粛等を余儀なくされているなかで、頑張る職員の皆様に対する福利厚生としての利用はもちろんですが、コ

新型コロナウイルスは行政、医療が一体となつて「オール東京」で臨まなければいけない異常事態です。ともに闘うためにも、柔軟な対応を望みたいし、東京都病院協会としてもそうした申し入れを行っていく考えです。

コロナ感染等で院内の職員食堂が使えなくなった場合への備え、すなわち食事提供のBCPとしての意義もあります。大変ご好評いただいたため、運営資金について5月27日よりクラウドファンディングを開始したところ、大変多くの皆様にご賛同いただき、6月末までに総額313万6000円ものご支援をいただくことができました。皆様のご支援に厚く御礼申し上げます。

このクラウドファンディングを原資として、6月から8月末まで「キッチンカー派遣によるお食事100食までの無料提供」を合計17病院(6月は1件、7月は7件、8月は9件)にて実施いたしました。(※100食を超えたご注文は、1食800円で承ります)

会員病院の皆様へ、このサービスをご利用いただき、大変ご好評をいただきました。実際にいただいたお喜びの

声などは、次月の会報紙でご報告させていただきます。今後とも様々なプロジェクトを通じて、会員の皆様のご支援および東京都における医療提供体制の維持に資する活動を行ってまいります。今後とも何卒よろしくご厚意の申し上げます。



大久野病院にて



東京北医療センターにて

#東京都 #社会にいいこと #医療・福祉 #フード #新型コロナウイルス

コロナと戦う医療現場に、できたての温かい食事を

📍 #医療現場を応援 プロジェクト事務局



コロナと戦う医療現場に、できたての温かい食事を

READYFORサイト内の本プロジェクトトップページ画像

トを通じ、会員の皆様のご支援および東京都における医療提供体制の維持に資する活動を行ってまいります。今後とも何卒よろしくご厚意の申し上げます。

○クラウドファンディングのプロジェクト実施終了報告は、「READYFOR」のウェブサイトページにて掲載されております。左のQRコードより、ご確認ください。



2

令和三年度東京都予算に対する要望事項

東京都医師会を通じ提出した来年度の東京都予算に対する要望事項について、2020年8月27、31日に東京都議への説明が行われ、当協会より猪口正孝会長、内藤誠二副会長、大田健副会長が出席した。(4面に続く)

私の医道

自見 庄三郎

元金融・郵政大臣、医師



(3面より続き)

私は1945(昭和20)年11月5日、現在の北九州市小倉北区、小倉市街の中心部で九大医卒の父・政雄が開業していた自見産婦人科医

院で生まれた。3m先には森陽外の旧居跡がある。母は禮子という。兄3人と姉3人、7人兄弟の末っ子である。一番上の姉が15歳上、長兄が13歳上。一番下の姉は私が生まれる前に1歳で夭逝している。私は母が37歳の時に生まれた子で、当時としてはかなりの高齢出産だろう。ただ、7人目となるかなり慣れていたようで、出産する20分前まで新聞を読んでいたそうだ。

第3回

生い立ちのこと

自見家で100年ぶりに生まれた三男ということで、父はとても喜び、曾祖父の名からとって「庄三郎」と付けた。父は終戦直前に45歳以上にも関わらず召集令状により対馬の守備部隊の軍医として召集された。そんな無理もたたり戦後まもなく私が3歳の時に当時の国民病である肺結核により亡くなった。私自身は残念ながら父の記憶がほとんどない。母は39歳で未亡人になり、3男3女を女手一つで育てた。男三人は医者

に、女三人は医者の子孫になった。母は明治生まれの女性らしい、気骨のある人だった。母方の祖先をたどると藤原氏までさかのぼる。藤原道長の兄・道兼から4代下つたものが下野国(栃木県)の一宮である宇都宮氏となり八幡太郎義家の娘と結婚した。鎌倉幕府の初期の三大御家人の一家である。その一族が400年間北九州市九州で守護大名であったが、戦国時代の末期に豊臣秀吉の九州平定の先兵としてきた大分県中津城主・黒田官兵衛の謀略により、娘と息子の祝言の席でだまし討ちにより殺された。(このことはNHKの大河

番組でも放映されていた)江戸時代は大庄屋として帰農し、明治時代になって筑豊炭田の石炭の開発の先駆者の一人となり、19世紀に衆議院議員となつた曾祖父の久良知寅次郎とその従兄弟の蔵内次郎作がいる。私の母は、先祖をだまし討ちにしたからと黒田官兵衛を許さず、福岡城の前は通らないと言つて聞かなかつた。一方でキリスト教徒でもあり、文学少女でもあつたから、家には蔵書が山のようにあり、小さい頃から私もそれを読んで過ごした。そんな両親の間に私は生まれたわけ

だが、生まれる約3カ月前の8月9日、長崎に原爆が投下されている。実はこの時の第一目標は広島、長崎と同じ軍部の町、小倉だった。ただ瀬戸内海、関門海峡、日本海の潮の流れに由来すると思うが、小倉には朝方、よく雲がかかつていた。米軍は原爆投下にあつて「標的地を目標でできる状況で投下すべし」との命令を出していたため、小倉での投下を断念し、長崎に向かつたのだ。

実際、この日の朝、小倉では空襲警報が発令され、ラジオでも防空壕に避難するようにアナウンスが出たそうだ。長兄は利かんきが強い子どもだったそうで、防空壕に入らず屋根に上つて空を眺めていた。B29が1機で小倉の空の雲の上を40分ほど旋回していたという。兄は「いつもなら編隊を組むはずなのに何かしい」と思つていたそうだが、まさに長崎に投下した原爆を搭載したB29を目標していたわけだ。

後年、国会議員となつた私は小倉で毎年開かれる長崎の原爆で亡くなった方々の慰霊祭に出席したが、もし8月9日の朝小倉の空が晴れていたら——という思いがこみ上げ、戦争というものは生も死も紙一重といういたたまれない気持ちになつたものである。

主な内容として▽前年までの医業利益率が4年連続赤字の東京都内の一般病院において、今年のコロナ禍で赤字幅が一気に2ケタ台となつたこと、▽そうした病院はたとえ福祉医療機構の緊急貸し付けを受けても、返済据置期間経過後の返済源資を生み出すことは容易ではないこと、▽今後、経営の立ちゆかなくなつた病院などを含めた病院再編が予想されること、▽コロナ受

入病院には補助金が出ているが、コロナ未受入病院は対象外であることが多く、極めて厳しい状況に陥つていること——などを訴えた。また、医業利益率激減は急性期病院だけでなく地域包括ケア病棟に波及し、地域医療の危機に向かつていく可能性にも言及し、特に、コロナ未受入病院への都からの補助金支援について強く要望した。

第15回東京都病院学会 (オンライン開催)

主 題：「私たちはどう生きるか」—持続可能な病院医療を考える・コロナ禍に打ち勝つ！—
学会長：竹川勝治(愛和病院理事長)

2021年3月7日(日)開催予定!

開催まであと160日

Live配信 : 2021年3月7日(日) 9時~17時(予定)

配信期間 : 2021年3月7日(日) 9時~3月21日(日) 23時59分



エネルギーのことなら、まずは、東京ガスに相談を。

病院のエネルギーに関するご相談は「エネルギーのプロ」東京ガスにおまかせください!



パッチョ

電パッチョ

エネルギー・フロンティア TOKYO GAS

お問い合わせ

東京ガス株式会社

都市エネルギー事業部
公益営業部 運営事務局

TEL.03-5400-7735

☒ kouekia@tokyo-gas.co.jp